

年度評価シート

課名 生涯学習推進課

施設の名 生涯学習センター（11館）	指定管理者名 公益財団法人静岡市文化振興財団
1 履行状況	
<p>(1) 目標達成</p> <p>ア 利用者満足度 目標値 90%、実績値 97.4%（前年度 97.0%）、達成率 108.2%（前年度比+0.38%）</p> <p>イ まちづくりに関する講座の実施と活動意欲の調査結果 （目標）連続3回講座を各施設で1回以上開催 うち連続5回以上の講座を4講座開催すること シチズンシップが身についた人の割合を全体の90%以上にすること （実績）連続3回講座 各施設1回以上開催、合計23講座開催 うち連続5回以上の講座は13講座開催 シチズンシップが身についた人の割合は全体の97.2%</p> <p>(2) 施設利用状況</p> <p>ア 稼働率 42.2%（前年度 43.7%）</p> <p>イ 利用者数 538,192人（前年度 512,612人）</p> <p>(3) 人員配置状況 正規職員 111人、パート 52人</p> <p>(4) 業務実施状況</p> <p>ア 生涯学習事業 共催相手の事情等により17回が中止となったが、仕様書に定めた1,250回の108.6%にあたる1,357回（515講座）を実施することができた。延べ参加者数においては、前年度24,585人に対して24,947人（362人増）と全体の受講者数が増加する結果となった。なお、受講満足度については92.0%と高い水準を保っており、適切な講座運営を行うことができた。 また、「まちづくりに関する講座の実施と活動意欲」については、「人材養成講座 共催事業 地域支えあい隊プロジェクト」（全2回）「にしな歴史ガイド養成講座」（全4回）等の講座が実施され、全ての施設で所定の講座を実施していた。</p> <p>イ 社会教育事業 仕様書に定める24学級を全て開設することができた。また、全ての施設で家庭教育学級又は女性学級を開設することができた。延べ参加者数においては、前年度11,989人に対して10,936人と若干減少したものの、高い水準を維持した。なお、受講満足度については88.0%と前年度の86.7%を上回る結果となった。</p>	

ウ 維持管理業務

清掃業務ほか 28 件の保守点検業務について、第三者委託により実施した。また、120 件の修繕を実施した。

【検証・分析等】

「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」キャリアチャレンジ学部該当事業の実施について、2 施設で 2 講座実施されており、意欲的な取り組みがうかがえた。

また、喫緊の社会課題であるデジタルデバイドの解消に関する講座の実施についても、仕様書に定めた各センター 1 回（全 11 回）以上を上回る、21 事業 51 回の実施となった。

総合的な評価として、令和 6 年度については、最善の事業実施ができており、受講者満足度も高く、さらにシチズンシップに富んだ人材養成やデジタルデバイドの解消に関する試みも実施しており、良好な運営がなされている。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

意見等：各センターでどんなサークルが活動しているかわかると良い。

対 応：当該センター分は目が留まりやすい場所にサークル一覧を掲示し、他センター分はサークル紹介が掲載されたセンターだよりを掲示した。

意見等：エアコンが効くようお願いしたい。

対 応：空調業者へエアコンの効きを確認し、必要があれば修繕などを行う。

【検証・分析等】

利用者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられており、即時の対応が困難である要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

管理運営が適正に行われているか確認するため、施設利用者を対象にアンケート調査を実施した。

【調査結果】

利用者満足度 97.4%（前年度 97.0%）

回答者総数：1,716 件

職員対応において「満足」「ほぼ満足」と回答した人数：1,671 人

【検証・分析等】

満足度は 97.4%であり、目標値の 90%を大きく超えたことは高く評価できる。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(2) 市民アンケート

静岡市民の生涯学習活動に関する実態及びニーズを把握し、生涯学習センターの事業や管理運営に反映させるため、施設利用者であるかを問わず、広く市民を対象に Google フォームや調査用紙で回答を収集し、調査を実施した。

【調査結果】

有効回答数 692 件、当該施設の認知度 93.8%（前年度 84.9%）

【検証・分析等】

施設の認知度が 93.8%と、前年度より大幅に上がっていることは高く評価できる。一方で、利用したことがないと回答した割合が 28.6%という結果となり、施設の利用方法の周知について課題が浮き彫りとなったため、効果的な情報発信手段を検討していく。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(3) その他の調査

【確認結果】

－：未実施

4 指定管理者の経理（収支）状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

【検証・分析等】

前年度は若干の支出経過が見られたものの、今年度はその点も解消されており、非常に良好な状況である。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	有
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

《事務事業事故》

藁科生涯学習センター：主催事業「綿～種まきからの紡ぎと織り～」の講座において、例年講座終了後に受講者の作品を展示している。今回、受講者（A氏）から預かった作品を職員が展示しようと、額縁に入った作品を壁にかけたところ、作品が落ち、額縁が一部破損した。

○恒久対策

- ・展示方法に問題がないか施設職員複数人で確認を行い、安全な場所に保管・展示をする。
- ・その他の生涯学習施設でも同じことが起きないように、情報共有・注意喚起を行う。

【検証・分析等】

施設の管理運営全般に関しては適切な点検や修繕が実施され適切な管理が行われている。

講座等についても事業計画に沿って適切に実施されている。講座回数は仕様書上の規定を上回っており、内容においては、現代的課題を扱った講座や、財団内の連携による文化施設との共催、大学・行政機関・地域との連携等これまでに培われたネットワークを活用して幅広く事業を企画実施している。また、人材養成事業にも取り組み、市民主体のまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材育成による地域コミュニティの活性化に努めている。

引き続き、財団の持つノウハウや、専門性・総合性・地域性の経営資源を活用した強みを活かし、生涯学習活動及びまちづくり活動を着実に推進されたい。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。